

L1 ANSWER 1 OF 1 WPINDEX COPYRIGHT 2005 THE THOMSON C on STN
 AN 1984-227814 [37] WPINDEX
 DNC C1984-096010
 TI Skin metabolism-activating cosmetic material - comprising nucleic acid
 derivative moisture-retaining component and/or physiologically active
 material.
 DC D21 E19
 PA (KOBAN) KOBAYASHI KOSE KK
 CYC 1
 PI JP 59134706 A 19840802 (198437)* 3 <--
 ADT JP 59134706 A JP 1983-5944 19830119
 PRAI JP 1983-5944 19830119
 IC A61K007-00
 AB JP 59134706 A UPAB: 19930925
 Cosmetic material (I) consists of a nucleic acid related substance (II), a
 moisture-retaining component (III) and/or a physiologically active
 component (IV). (II) may be at least one of DNA, RNA, nucleotides,
 nucleosides, AMP and their salts and derivs. (III) may be at least one of
 amino acids (V), NMF components (VI), peptides (VII) and polysaccharides
 (VIII). (IV) may be at least one of vitamins (IX), enzymes (X) and crude
 drug extracts (XI).
 (V) are e.g. serine, glycine and arginine. (VI) are e.g. lactic acid,
 succinic acid and urea. (VII) are e.g. soluble collagen and soluble
 elastin. (VIII) are e.g. cellulose, starch and hyaluronic acid. (IX) are
 e.g. vitamins A, B2 and C. (X) are e.g. papain and trypsin. (XI) are e.g.
 Japanese angelica root and Ginseng.
 USE/ADVANTAGE - (I) can activate metabolism in the skin, and has
 excellent skin-protecting and moisture-retaining characteristic. (I) can
 be used e.g. in the form of toilet waters, creams or milky lotions.
 0/0
 FS CPI
 FA AB
 MC CPI: D08-B09; D09-E; E06-D09; E06-D17; E07-A02; E10-A13B; E10-A17;
 E10-B02D; E10-C02D; E10-C04D; E10-E04M

BEST AVAILABLE COPY

⑩ 日本国特許庁 (JP)
⑫ 公開特許公報 (A)

⑪ 特許出願公開
昭59—134706

⑬ Int. Cl.³
A 61 K 7/00

識別記号 庁内整理番号
7306—4 C

⑭ 公開 昭和59年(1984) 8 月 2 日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑮化粧料

⑯特 願 昭58—5944
⑰出 願 昭58(1983) 1 月19日
⑱発 明 者 岡部美代治
東京都葛飾区新小岩 3—13—10

メゾンドウ汐澤201
⑲発 明 者 品川由紀夫
横浜市磯子区磯子 2—19—39
⑳出 願 人 株式会社小林コーセー
東京都中落区日本橋 3 丁目 6 番
2 号

明 細 書

1. 発明の名称
化粧料
2. 特許請求の範囲
- (1) 核酸関連物質と保湿成分及び／又は生理活性成分とを必須成分として含有することを特徴とする化粧料。
- (2) 核酸関連物質が、DNA・RNA・ヌクレオチド・ヌクレオシド・AMP、及びそれらの塩類、並びにそれらの誘導体の一種又は二種以上の組み合わせからなる特許請求の範囲第1項記載の化粧料。
- (3) 保湿成分が、アミノ酸類・NMP成分類・ペプチド類・多糖類の一種又は二種以上の組み合わせからなる特許請求の範囲第1項記載の化粧料。
- (4) 生理活性成分が、ビタミン類・酵素類・生薬抽出物の一種又は二種以上の組み合わせからなる特許請求の範囲第1項記載の化粧料。
3. 発明の詳細な説明

本発明は、新規な化粧料に関し、その目的とするところは、皮膚の新陳代謝を活発にし、皮膚の保護と水分の保持性に優れた効果を有する化粧料を提供するものである。

従来より、DNA・RNA等の核酸関連物質は皮膚の保護並びに保湿剤として化粧料に配合されてきた。しかしながらこれら核酸関連物質の単独の配合では、その期待される作用効果が未だ充分ではなく、又そのため配合量を増加すれば化粧料の安定性に悪影響をおよぼす等の欠点を有していた。

そこで本発明者等は、係る問題を鑑みて核酸関連物質の作用効果を相乗的に強化させる組み合わせについて巾広く鋭意研究の結果、皮膚の保護と水分の保持性に優れた効果を有する化粧料を得るに及び本発明を完成させた。

すなわち本発明は、核酸関連物質と保湿成分及び／又は生理活性成分とを必須成分として含有することを特徴とする化粧料である。

本発明に用いる核酸関連物質とは、DNA・

R・N・A・ヌクレオチド・ヌクレオシド・A・M・P等と、及びそれらの塩類、並びにそれらの誘導体を挙げる事ができ、一種又は二種以上の組み合わせにより使用でき、その使用量は0.0001重量%以上で有効である。

本発明に用いる保湿成分とは、アミノ酸類・H・M・P成分類・ペプチド類・多糖類等を挙げる事ができ、一種又は二種以上の組み合わせにより使用でき、その使用量は0.01重量%以上で有効である。

次に生理活性成分とは、ビタミン類・酵素類・生薬抽出物等を挙げる事ができ、一種又は二種以上の組み合わせにより使用でき、その使用量は0.0001重量%以上で有効である。

アミノ酸類とは、セリン・グリシン・アスパラギン・アスパラギン酸・リジン・アルギニン・スレオニン・システイン等と、及びその誘導体を挙げる事ができる。

H・M・P成分類とは、乳酸・P・O・A・クエン酸・コハク酸・尿素等と、及びこれらのナトリウ

特開昭59-134706(2)

ム塩・カリウム塩・トリエタノールアミン塩・アルギニン塩・リジン塩・ヒスチジン塩・オルニチン塩・オキシリジン塩等の塩類、並びにそれらの誘導体を挙げる事ができる。

ペプチド類とは、可溶性コラーゲン・可溶性エラスチン・ゼラチン等と、及びそれらの誘導体を挙げる事ができる。

多糖類とは、セルロース・デンプン・カラギーナン・コンドロイチン硫酸・ヒアルロン等と、及びそれらの塩類、並びにそれらの誘導体を挙げる事ができる。

ビタミン類とは、ビタミンA・ビタミンB₁・ビタミンB₂・ビタミンB₆・ビタミンB₁₂・ビタミンC・ビタミンE・ビタミンP・ビタミンH等と、及びそれらの誘導体を挙げる事ができる。

酵素類とは、パペイン・トリプシン・含糖ペプシン・ビオブラーゼ等のプロテアーゼ、塩化リゾチーム、アルカリ性ホスファターゼ等を挙げる事ができる。

生薬抽出物とは、シコン・当帰・人参・当薬

・川芎・地黃・アルニカ・カミツレ等の消炎作用を有するものを挙げる事ができる。

本発明に於ける化粧料は、上記した、核酸関連物質と保湿成分及び／又は生理活性成分とを必須成分として含有することとを特徴とする化粧料であり、柔軟性化粧水・収斂性化粧水・洗浄用化粧水等の化粧水類、エモリエントクリーム・マッサージクリーム・クレンジングクリーム・メイクアップクリーム等のクリーム類、エモリエント乳液・モイストチュア乳液・ミルクイローション・ナリニング乳液・クレンジング乳液等の乳液類、ゼリー状パック・ペースト状パック・粉末状パック等のパック類、及び洗顔料類などが主なものとして挙げられる。

次に本発明について、実施例をあげてさらに説明する。これらは本発明を何ら限定するものではない。以下は重量%を要する。

[実施例1] クリーム

(処方)

(1) ワセリン

%

10

(2) 流動パラフィン	10.0
(3) 小麦胚芽油	5.0
(4) ステアリン酸	1.5
(5) セスキオレイン酸ソルビタン	1.5
(6) 香料	0.1
(7) 1,3-ブチレングリコール	3.0
(8) カルボキシビニルポリマー	0.01
(9) D・N・Aナトリウム	1.0
(10) ヒアルロン酸ナトリウム	0.2
(11) 当帰エキス	1.0
(12) 防腐剤	0.1
(13) 水酸化ナトリウム	0.005
(14) 精製水	残量

(製法)

A (1)~(6)を加熱溶解(70℃)する。

B (7)~(14)を加熱溶解(70℃)する。

C AにBを加え乳化をし、冷却し、クリームを得る。

[実施例2] 化粧水

(処方)

%

特開昭59-134706(3)

(1) エタノール	7.0
(2) 1,3-ブチレングリコール	7.0
(3) 酢酸 α - α -トコフェロール	0.05
(4) 防腐剤	0.1
(5) 香料	0.1
(6) モノオレイン酸ポリオキシエチレンソルビタン(20E.O.)	1.0
(7) D M A	0.5
(8) α -ピロリドンカルボン酸ナトリウム液	0.2
(9) シコンエキス	1.0
(10) 水酸化ナトリウム	0.005
(11) 精製水	残量

(製法)

- A (1)~(6)を混合溶解する。
 B (7)~(10)を混合溶解する。
 C AをBに加え混合し、化粧水を得る。

〔実施例3〕乳液

(処方)

(1) ワセリン	5
----------	---

(2) 流動パラフィン	2.0
(3) サフラワーオイル	3.0
(4) モノステアリン酸グリセリン	1.5
(5) セスキオレイン酸ソルビタン	1.0
(6) 香料	0.1
(7) モノオレイン酸ポリオキシエチレンソルビタン(20E.O.)	1.0
(8) 1,3-ブチレングリコール	5.0
(9) ポリアクリル酸ナトリウム	0.05
(10) D M A ナトリウム	0.2
(11) 防腐剤	0.1
(12) 可溶性エラスチン	0.5
(13) 精製水	残量

(製法)

- A (1)~(6)を加熱溶解(70℃)する。
 B (7)~(11)及び(13)を加熱溶解(70℃)する。
 C AをBに加え乳化をし、冷却し、(12)を加えて乳液を得る。

本発明の化粧料の作用効果につき、使用テストにより試験を行なった。使用テストは、30

〜40才の10名の女性をパネルとし、毎日朝と夜の2回、洗顔後、実施例1のクリームを適量顔面に、2週間にわたって塗布することにより行なった。評価は、「肌がしっとりしているように感じられるようになった」、「肌あれがなくなった」、「小じわが目だたなくなった」の3項目につきその有効性を判定した。結果は表1に示すとおりである。

いるように感じられるようになり、肌あれがなくなり、小じわが目だたなくなったという効果が、高い有効率をもって確認された。

また、実施例2の化粧水及び実施例3の乳液についても、ほぼ同様の使用テストを行なった結果、同様の効果が、高い有効率をもって確認された。

以上

出願人 株式会社 小林コーセー

表 1				
使用テスト	有効	やや有効	無効	有効率(%)
肌のしっとり感	7	3	0	100
肌 あ れ	6	4	0	100
小 じ わ	5	3	2	80

表1の結果よりあきかなように、実施例1のクリームの使用により、肌がしっとりとして

特許法第17条の2の規定による補正の掲載

昭和58年特許願第5944号(特開昭59-134706号, 昭和59年8月2日発行 公開特許公報59-1348号掲載)については特許法第17条の2の規定による補正があったので下記のとおり掲載する。 3(2)

Int. Cl. ¹	識別 記号	庁内整理番号
A61K 7/00		7306-4C

6. 補正の内容

(1) 明細書第4ページ第9行

「ヒアルロン等」とあるを、「ヒアルロン酸等」と訂正する。

平成 2. 4. -9 発行

手続補正書(自発)



平成元年12月18日

特許庁長官殿

1. 事件の表示

昭和58年特許願第5944号

2. 発明の名称

化粧料

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住所 東京都中央区日本橋3丁目6番2号

名称 株式会社 小林コーセイ

代表者 小林 禮次郎



4. 補正命令の日付

自 発

5. 補正の対象

明細書の「発明の詳細な説明」の欄

